平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	ICT戦略室	ICT戦略課

事業名	オープンデータの活用推進		
事業開始年度	平成25年度	実施主体	福岡市
根拠法令	なし		
行政計画上の位置づけ	政策推進プラン，行財政改革プラン，情報化推進プラン		

基本計画		
施策コード	主 7-1-2	再
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している	
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり	
事業群	創業しやすい都市づくり	
施策成果指標		

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

ビッグデータ・オープンデータが十分に活用されていない状況のもと，市民の利便性向上や新産業創出・経済活性化につながるよう，福岡市，千葉市，奈良市及び武雄市の首長が協議会を立ち上げ，他都市に先行して，課題の検討とともに実例の創出に取り組むこととしたもの。

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
オープンデータの活用を望む市民・企業	①市民や企業が，オープンデータを有効に活用し，新事業や官民共働の新サービスを創出する。 ②二次利用しやすく，安心して活用できる形で公共データを広く公開する（オープンデータ化）。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法　■ 委託含む　□ 補助金含む　■ 負担金含む

①「福岡市オープンデータ」サイト（試行版）開設（H26.10）
・二次利用可能な行政データを提供するサイトを開設した。
②オープンデータ提供のあり方検討（H26.11～H27.3）
・活用事例創出に向け，機械判読性に優れた形式で行政データを提供するためのあり方について検討した。
③ビッグデータ・オープンデータ活用推進協議会
・市民企業から広く活用アイデアを募集（H26.8～10）し，6県市首長が来福し審査・表彰を行った（H27.1）
④ビッグデータ＆オープンデータ研究会in九州（BODIK）
・シンポジウムやトークイベント，データソン等を実施した。
⑤Webまっぷコンテンツ整備

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	4,560	7,000	22,022
歳入	特定財源			
	一般財源	4,560	7,000	22,022

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	実施可能な活用方策（アイデア）	目標	3	3	3	28年度 3
		実績	5	7		
		達成率	166.7%	233.3%		
	福岡市Webまっぷのコンテンツ登録数	目標	13,299	13,500	14000	28年度 14000
		実績	13,299	14,518		
		達成率	100.0%	107.5%		
成果の指標	オープンデータの活用事例	目標		創出	創出	28年度 創出
		実績		3		
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
・活用アイデアコンテストの実施
・シンポジウムの開催
・活用における諸課題整理と活用方策の検討

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
・活用機運の醸成
・実現可能な活用アイデアの収集
・活用のための諸課題に対する対応策
・福岡市にふさわしい活用方策

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
・二次利用可能な行政データのオープン化が進み，福岡市発の先行事例が生じる。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
市民・企業が，オープンデータを様々な分野で有効活用し，新産業を創出したり，官民共働のもと新サービスが提供され，スタートアップ都市づくりに貢献している。

大
行政のコントロール要素
小
外的な要因
大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	企画調整部	企画課

事業名	志賀島活性化構想の推進	基本計画	施策コード　主 4-4-3　再
事業開始年度	平成14年度		分野別目標：人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
根拠法令	なし		施策：まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり
行政計画上の位置づけ			事業群：農山漁村地域など市街化調整区域の活性化

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

平成13年度に国民宿舎しかのしま苑が廃止されたことを機に，平成14年度に志賀島総合振興推進協議会（現在の志賀島振興協議会）が発足し，地域の活性化について検討を進めることになった。

施策成果指標

なし

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
志賀島	志賀島活性化構想に基づく島づくりを促進し，志賀島の活性化を図る。 ＜志賀島活性化構想に掲げられた島づくりの方針＞ ・自然と歴史を継承する島づくり ・訪れる人をもてなす憩いの島づくり ・農漁業の営みを創り伝える島づくり ・安心して住み続けることができる島づくり ・ふるさとをみんなで創る助け合いと協力の島づくり

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法　■ 委託含む　□ 補助金含む　□ 負担金含む

平成19年度に地域が策定した志賀島活性化構想の見直しを行い，今後の志賀島の活性化の方向性を検討した。

〇志賀島活性化構想検討業務委託
志賀島活性化構想の見直しに関する業務
　支出金額：3,834,000円

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	4,559	3,834	4,000
歳入	特定財源	0	0	0
	一般財源	4,559	3,834	4,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	志賀島振興協議会等の開催回数	目標	6	6	6	年度
		実績	3	6		
		達成率	50.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	定住人口	目標	1,929	1,869	現状維持	年度
		実績	1,869	1,791		現状維持
		達成率	96.9%	95.8%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
- 地元と意見交換を行いながら，活性化構想の見直しに向けた作業の実施
- 関係局区の関連事業の総合調整

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
- 活性化構想の見直し
- 関係局区の連携による各事業の効果の最大化

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
- 志賀島の自立的な活性化の取組み
- 交流人口の増加

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
- 定住人口の維持

大　行政のコントロール要素　小

小　外的な要因　大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	企画調整部	企画課

事業名	ユニバーサル都市・福岡の推進	
事業開始年度	平成23年度	
根拠法令	なし	
行政計画上の位置づけ	なし	
基本計画	施策コード	主 1-1-1　再
	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
	施策	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり
	事業群	ユニバーサル都市・福岡の推進
背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 少子高齢化や都市のグローバル化などに伴い，本市に暮らし，訪れる様々な人々の価値観やライフスタイルに対応するまちづくりが求められている。	
施策成果指標	○ユニバーサルデザインの概念の理解度（H28：55%） ○ユニバーサルデザインの取組みへの評価（H28：45%）	

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
市民	市民一人ひとりが，ユニバーサルデザインの考え方を理解し，誰もが思いやりを持ち，すべての人にやさしいまちになっている。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法　■ 委託含む　□ 補助金含む　■ 負担金含む

◎ **ユニバーサル都市・福岡賞の創設・実施**
⇒ UDによる取組や製品開発等を募集し表彰（応募：8件，表彰：4件）
◎ **ユニバーサル都市・福岡フェスティバル2014の開催**
⇒ 市，NPO等による事業を集中的に実施（15事業，延べ7.6万人以上参加）
◎ **ユニバーサル都市・福岡活動支援事業の実施**
⇒ NPO等のUDに関する活動費の一部を負担(5件応募，5件助成）
◎ **ユニバーサル都市・福岡デザインワークショップ2014の開催**
⇒ 市内のﾃﾞｻﾞｲﾅｰや企業等による，UDの考え方によるﾜｰｸｼｮｯﾌﾟの開催
⇒ ホテルや博物館を事例に，「福岡発のユニバーサルデザイン」を検討
◎ **企業向けセミナーの開催**
⇒ UDを企業活動へ取入れていくためのﾋﾞｼﾞﾈｽｾﾐﾅｰ開催（95名が参加）
◎ **小学生向け副読本の作成** ⇒ 全市の小学校（4年生）に配布
◎ **庁内推進** ⇒ 推進本部，新人研修の実施

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	14,716	15,000	21,500
歳入	特定財源			
	一般財源	14,716	15,000	21,500

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	ユニバーサル都市・福岡フェスティバルの参加者数	目標	50,000	100,000	100,000	34年度 150,000
		実績	39,698	76,069		
		達成率	79.4%	76.1%		
	ユニバーサル都市・福岡の企業向けセミナー参加者数	目標	50	100	－	34年度 －
		実績	33	95		
		達成率	66.0%	95.0%		
成果の指標	ユニバーサルデザインの概念の理解度	目標	52.0%	53.0%	53.0%	34年度 70.0%
		実績	47.2%	48.7%		
		達成率	90.8%	91.9%		
	ユニバーサルデザインの取組みへの評価	目標	42.0%	43.0%	43.0%	34年度 65.0%
		実績	35.9%	39.3%		
		達成率	85.5%	91.4%		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ（どんな活動を行なうのか）
○ユニバーサル都市・福岡賞
○フェスティバルの実施
○市民向けプロモーション，企業向け啓発事業の実施
○NPO等のUDに関する活動に助成
○小学生へ副読本の配布
○新人研修の実施

②結果ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ（活動の結果、どうなるのか）
○市民等が，ユニバーサル都市・福岡賞に応募する
○市民等がフェスティバルに参加する
○市民や企業がUDに触れる
○NPO等がUDに関する取組を実施する
○小学生がUDについて学ぶ
○市職員がUDについて理解し，業務に取り入れる

成果の指標

③中間ｱｳﾄｶﾑ（その結果、対象はどうなるのか）
○行政だけでなく，市民・地域，企業，学校などがUDの大切さについて十分に理解している。
○行政をはじめ，市民・地域，企業，学校などで，UDに関する具体的な取組を行っている。

施策成果指標

④最終ｱｳﾄｶﾑ（その結果、市としてどうなるのか）
○みんながやさしい，みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」が実現し，市民の生活の質や市の魅力が向上する。

大　行政のコントロール要素　小
小　外的な要因　大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	

所管課名	総務企画局	企画調整部

事業名	産学官民連携による国際競争力強化	基本計画	施策コード	主 6-1-1	再 8-1-1	
事業開始年度	平成23年度		分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
根拠法令	なし		施策	産学官連携による、知識創造型産業の振興		
行政計画上の位置づけ	なし		事業群	産学官連携の推進		

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

アジアと日本の玄関口であり，暮らしの質の高さが世界から評価されている福岡であるが，今後は人口減少などにより経済成長が衰退する見込みがある。今後福岡の活力を維持強化していくためには，産学官民が一体となって，国際競争力を高め，地域経済をグローバル化することで，アジアの内需を取り込んでいくことが必要である。

施策成果指標

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
○福岡都市圏内外の産学官民	○産学官民が一体となって，策定した地域戦略を推進することで，国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となっている。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	□ 委託含む	□ 補助金含む	□ 負担金含む

○福岡都市圏の成長戦略を推進していくための産学官民連携組織である福岡地域戦略推進協議会の負担金を支出した。
福岡市は正会員として参画
（負担金内訳：正会員年会費：300千円，協賛金等：39，100千円）

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	49,700	39,400	39,400
歳入	特定財源			
	一般財源	49,700	39,400	39,400

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	市民シンポジウムの参加者	目標	2,000	500	1000	32年度 2000
		実績	1,000	450		
		達成率	50.0%	90.0%		
成果の指標	域内総生産（GRP）（+兆円）	目標				32年度 2.8
		実績				
		達成率				
	雇用増加（+万人）	目標				32年度 6
		実績				
		達成率				
	人口増加（+万人）	目標				32年度 7
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）

・福岡地域戦略協議会が策定した地域戦略を推進するために、5つの部会ごとにプロジェクトを検討する。

・イベントや情報発信を通じて、市民との共有を重視しながら戦略を推進していく。

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）

・5部会それぞれのプロジェクトが事業化を見据えて進められている。

・市民との共有が実現することにより戦略がより推進される。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）

・次々と事業が生みだされることで，域内外から人と投資が呼び込まれ，成長戦略目標が達成される。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）

福岡都市圏が東アジアのビジネスハブとして，日本・中国・韓国・台湾などのビジネス交流拠点となり，多様な人材が訪れ，働き，暮らす，国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となっている。

行政のコントロール要素：大 → 小

外的な要因：小 → 大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	企画調整部

事業名	産業の国際競争力の強化（総合特区制度の推進）	基本計画	施策コード	主	8-3-1	再	
事業開始年度	平成23年度		分野別目標	国際競争力を有し，アジアのモデル都市となっている			
根拠法令	総合特別区域法		施策	国際的なビジネス交流の促進			
行政計画上の位置づけ	グリーンアジア国際戦略総合特区国際競争力強化方針等		事業群	国際ビジネスの振興			

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

国において，産業の競争力強化を目的とした総合特別区域法が策定され，同法に基づき区域指定。
H23.6：総合特別区域法成立　H23.9：地域協議会の設立
H23.12：総合特区の区域指定（ｸﾞﾘｰﾝｱｼﾞｱ）

施策成果指標

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
環境を軸とした産業	アジアの活力を取り込み，環境を軸とした産業の競争力を強化する。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	□ 委託含む	□ 補助金含む	■ 負担金含む

〇総合特区制度の支援策に関する国との協議の実施
〇グリーンアジア国際戦略総合特区地域協議会の運営
〇総合特区制度の支援策にあわせた福岡市独自の取組みの実施
市税の優遇や財政支援などの支援策の拡充等

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	8,959	990	3,000
歳入	特定財源			
	一般財源	8,959	990	3,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標		目標				年度
		実績				
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標		目標				年度
		実績				
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ（どんな活動を行なうのか）

産学官で構成するグリーンアジア国際戦略総合特区地域協議会への参画
国や協議会の動きにあわせて，福岡市としてのインフラ整備や民間支援策などの事業を実施

②結果ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ（活動の結果，どうなるのか）

地域協議会において，民間事業者の投資計画などを踏まえた特区計画の作成・変更や，支援策のPRなど民間事業者の活用を促進する環境を整備。国による規制改革や財政支援等による事業環境の改善。

成果の指標

③中間ｱｳﾄｶﾑ（その結果，対象はどうなるのか）

民間事業者による総合特区制度の支援策を活用した設備投資額の拡大。

④最終ｱｳﾄｶﾑ（その結果，市としてどうなるのか）

投資の促進による産業の国際競争力強化，雇用の確保。

施策成果指標

大　行政のコントロール要素　小

小　外的な要因　大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	企画調整部	企画課

事業名	超高齢社会対応検討（一部）ｱｸﾃｨﾌﾞｴｲｼﾞﾝｸﾞ	基本計画	施策コード　主 1-3-3　再
事業開始年度	平成25年度		分野別目標：一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
根拠法令	なし		施策：一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり
行政計画上の位置づけ	なし		事業群：アクティブエイジングの推進
背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 超高齢社会の到来に向けてアクティブエイジング（生涯現役社会づくり）を進める必要があったもの。	施策成果指標	健康に生活している高齢者の割合（H28　現状44%より増加）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
60歳前後を中心とした幅広い世代の市民	趣味や余暇活動などによって、高齢者が健康で心豊かな生活を送るとともに、知識や経験を活かして、社会や地域の担い手・支え手として意欲的に活躍するようになる。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法　□ 委託含む　□ 補助金含む　■ 負担金含む

〇昨年度に引き続き、退職等で生活スタイルの大きな転換が見込まれる60歳前後のアラカン世代を中心とした幅広い世代に、これからの過ごし方について考え、趣味や地域・ボランティア活動、起業や就労などを行うきっかけにしてもらう情報見本市「アラカンフェスタ」を開催した。
〇常設のホームページにより，イベントの情報発信を行った。

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	13,478	13,396	13,500
歳入	特定財源	0	0	0
	一般財源	13,478	13,396	13,500

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	「アラカンフェスタ」への来場者数	目標	3,000	7,000	7000	年度
		実績	3,957	7,401		
		達成率	131.9%	105.7%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	60歳以上市民の地域活動参加率（%）	目標	50.0	53	40.0	年度
		実績	36.3	37.2		
		達成率	72.6%	70.2%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
〇アラカンフェスタの開催
〇常設ホームページによるアラカン情報の配信

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
〇60歳前後を中心とする多くの市民がアラカンフェスタに参加する。
〇60歳前後を中心とする多くの市民が常設ホームページから情報を得るようになる。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
〇アクティブエイジング（生涯現役社会づくり）の重要性を認識する人が増え、趣味や地域・ボランティア活動などの行動を実際に起こすアクティブシニアが増加する。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
〇社会や地域の担い手・支え手として活躍する高齢者が増える。
〇健康に生活している高齢者（の割合）が増える。

行政のコントロール要素：大 ～ 小
外的な要因：小 ～ 大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	企画調整部	企画課

事業名	超高齢社会対応検討（一部）共助の仕組み	基本計画	施策コード　主 2-3-1　再
事業開始年度	平成24年度		分野別目標：さまざまな支え合いとつながりができている
根拠法令	なし		施策：支え合いや助け合いによる地域福祉の推進
行政計画上の位置づけ	なし		事業群：見守り・支え合いの仕組みづくり
背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 超高齢社会の到来に向け、住み慣れた地域で元気に暮らしていける共助の仕組みづくりが必要であったため。	施策成果指標	地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合　（H28　50%）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
地域住民 行政 民間事業者 NPO	住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう、共助の仕組みづくりを行う。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	□ 委託含む	□ 補助金含む	□ 負担金含む

〇共助の仕組みづくりについて、アジアン・エイジング・ビジネスセンター、九州経済調査協会、福岡市が共同研究チームを結成し、科学技術振興機構（JST）から助成金を受けてモデル事業を実施。
〇モデル地域において、地域の課題と地域の人材や資源を把握・見える化し、それらをマッチングすることで解決策を考える仕組み・手法の調査検討を実施。
〇地域課題の解決に向けて，企業やNPO等が参加する仕組み・手法の調査検討に着手。
〇地域コーディネーターが用いるツールを試作し、社会福祉協議会や公民館などの協力を得て試行。

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	3,244	139	750
歳入	特定財源	0	0	0
	一般財源	3,244	139	750

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	モデル地区において、モデル作りのワークショップ等を実施した回数	目標	5	7	10	年度
		実績	4	8		
		達成率	80.0%	114.3%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	共助のための企業等との連携体制ができた地域数	目標				年度
		実績				
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
〇モデル地域において、ワークショップ等を実施し、地域の課題・人材・資源を見える化し、マッチングすることで解決策を考える仕組み・手法を調査検討する。
〇企業等の参加により、地域課題を解決する仕組み・手法を調査検討する。

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
〇地域でのコーディネート人材育成のためのコーディネートツール（マニュアル）を開発する。
〇地域コーディネーターを支援する機能（中間支援機能）の組織・役割を具体化する。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
〇ワークショップ等を通じて、モデル地域における課題や資源等が明らかになるとともに、住民が地域の課題を自らのこととして主体的に考えるようになる。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
〇モデル地域において、住民や企業等が主体となった共助の仕組みが形成され、他地域にも広げることができるモデルができる。

大　行政のコントロール要素　小
小　外的な要因　大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	企画調整部	企画課

事業名	超高齢社会対応検討（一部）市民理解	基本計画	施策コード　主 8-6-2　再
事業開始年度	平成24年度		分野別目標：国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
根拠法令	なし		施策：アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進
行政計画上の位置づけ	なし		事業群：海外諸都市・国際機関等との連携・交流強化
背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 超高齢社会の到来に向け日本が先行している分野での海外貢献や、海外展開を検討する企業支援等を通じて福岡市の拠点性を高める必要があるため。	施策成果指標	視察・研修受入人数　（H28　970人）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
市民 高齢関係事業者	超高齢社会に関する理解の促進と関連する事業活動の活性化を図り海外進出につなげる。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法　□ 委託含む　□ 補助金含む　■ 負担金含む

〇アクティブエイジングに関するシンポジウムを開催し，活動事例の報告等を行った。
〇東南アジア（特にインドネシア）の大学・研究者などとの情報交換や、交流を中心とした協力関係構築に努めた。

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	500	500	740
歳入	特定財源	0	0	0
	一般財源	500	500	740

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	ビジネスワークショップ等の開催回数	目標	1	1	1	年度
		実績	1	1		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	海外で何らかの事業を実際に行った企業（福岡に拠点を有するもの）の数	目標	1	1	1	年度
		実績	0	0		
		達成率	0.0%	0.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
〇企業ワークショップ等を開催する。

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
〇海外進出を検討する企業が参加する。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
〇海外とのネットワークが広がる。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
〇企業のスムーズな海外展開に寄与することなり、福岡市の拠点性が高まる。

行政のコントロール要素：大 ～ 小
外的な要因：小 ～ 大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	

所管課名	総務企画局	企画調整部

事業名	グローバル人材の育成と集積(グローバル人材の育成・定着/イノベーション創出支援事業)	基本計画	施策コード	主 8-5-1	再 7-5-3	
事業開始年度	育成：平成25年度/集積：平成26年度		分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
根拠法令	なし		施策	グローバル人材の育成と活躍の場づくり		
行政計画上の位置づけ	なし		事業群	日本と世界をつなぐ人材の集積と交流拠点の形成		

背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に
	○社会のグローバル化，日本・九州の人口減少が進む中で，本市の国際競争力を高め，活力を維持していくために，グローバルに活躍できる人材の育成と集積及び活躍できる環境づくりを行う必要があるため。

施策成果指標

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
【グローバル人材の育成】 市内中高生 【グローバル人材の集積】 福岡都市圏 福岡内外の人材及び企業	【グローバル人材の育成】 グローバル人材育成環境の充実させることで将来的に世界で活躍できる人材の育成を図る。 【グローバル人材の集積】 イノベーション創出支援により革新的なビジネスアイデアが生みだされることで，スタートアップが加速され，また企業内新ビジネスが創出され，その成果により都市が豊かになる。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	■	委託含む	□	補助金含む	■	負担金含む

【グローバル人材の育成】
●グローバル人材の育成・定着
①特色あるグローバル人材育成施策を実施している国，東京都，札幌市，群馬県太田市へ教育委員会とともに調査・ヒアリングを実施
②「グローバル創業都市・福岡」の実現に向けたグローバル人材育成施策のあり方検討業務委託

【グローバル人材の集積】
●イノベーション創出支援事業
福岡地域戦略推進協議会が主催する，福岡の多様な人材や企業が参加しこれまでにないビジネス創出を目指すプロジェクト「イノベーションスタジオ福岡」の支援

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	29,911	37,927	33,900
歳入	特定財源			
	一般財源	29,911	37,927	33,900

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	イノスタ協賛企業数	目標		10	10	28年度
		実績		10		20
		達成率		100.0%		
		目標				28年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	生みだされたビジネスアイディアの数	目標		10	15	28年度
		実績		14		20
		達成率		140.0%		
	生みだされたスタートアップの数	目標		2	2	28年度
		実績		0		5
		達成率		0.0%		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
【グローバル人材の育成】
国際バカロレア認定校等のグローバル人材育成施策実践校への調査・ヒアリングを実施する。

【グローバル人材の集積】
イノベーションスタジオ福岡がスタートする。
（福岡市が負担金を支出し，運営を支援）

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
【グローバル人材の育成】
教育委員会等の関係部署と調査・ヒアリングの成果(方向性，課題等)を共有し，今後の具体的な検討及び導入を支援する。

【グローバル人材の集積】
福岡内外の多様な人材や企業がイノベーションスタジオ福岡に参加する。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
【グローバル人材の育成】
明確になった方向性と課題を踏まえた施策が立案・導入される。

【グローバル人材の集積】
よりよい生活につながるアイデアから新しい製品やサービスが生みだされ，創業や第2創業といったスタートアップが実現する。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
【グローバル人材の育成】
グローバル人材育成環境が充実し，市内中高生が将来的に世界で活躍できる人材として育成される。

【グローバル人材の集積】
スタートアップや創造性のある人材や企業の研究開発拠点の集積が促進され，雇用が生まれ税収が増加し，都市が豊かになる。

行政のコントロール要素：大 → 小
外的な要因：小 → 大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	企画調整部	企画課

事業名	福岡市における東京圏バックアップ調査研究・推進事業	基本計画	施策コード	主 4-4-6	再
事業開始年度	平成23年度		分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
根拠法令	なし		施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり
行政計画上の位置づけ	なし		事業群	東京圏バックアップの推進
背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 東日本大震災をきっかけに，主要な官公庁や民間企業の本社等，東京圏に国の中枢機能が一極集中していることの危機管理上の課題が強く認識されはじめたこと。	施策成果指標	

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
国（内閣府等），民間企業，福岡市	産学官で連携し，福岡市に東京圏のバックアップ機能を誘致することで，国全体の危機管理体制を構築するとともに，福岡市の活性化にもつなげる。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	□ 委託含む	□ 補助金含む	□ 負担金含む

〇内閣府や関係国会議員などに対して提言活動を実施
〇東京圏バックアップの実現や民間企業の本社機能の地方分散に向け，国の首都機能や本社機能が集積している東京で，経済界と協力してシンポジウムを開催
〇各中央省庁における業務継続計画の検討状況の調査などバックアップに関する国動向を把握
〇東京事務所や経済観光文化局企業誘致課により，東京圏に本社を有する民間企業に対して誘致のPR活動を実施

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	1,070	1,118	2,000
歳入	特定財源			
	一般財源	1,070	1,118	2,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	シンポジウムの開催数	目標	2回/年	1回/年	1回/年	年度
		実績	1回/年	1回/年		
		達成率	50.0%	100.0%		
	シンポジウムの参加者数	目標	250名/回	150名/回	150名/回	年度
		実績	210名/回	213名/回		
		達成率	84.0%	142.0%		
成果の指標	福岡市への東京圏バックアップの実現	目標	1	1		年度
		実績	0	0		
		達成率	0.0%	0.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
・産学官が連携したバックアップ機能の誘致活動の実施
・国，民間企業等へ，福岡市がバックアップ拠点として適していることのPR活動の実施

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
・国が福岡市をバックアップ拠点とすることを検討する。
・民間企業が福岡市への本社機能その他重要な機能の移転について検討する。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
・国が福岡市をバックアップ拠点とすることを決定する。
・民間企業が本社機能等を福岡市に移転する。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
・国や民間企業等が，東京圏の中枢機能を福岡市にバックアップすることで，福岡市の経済活動の活性化，人口増加等につながり，市民の生活の質や，市の魅力が向上するとともに，災害に強い国づくりに向けた地方の役割を果たすことができる。

行政のコントロール要素：大 → 小
外的な要因：小 → 大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	企画調整部	企画課

事業名	都心のまちづくりの推進	基本計画	施策コード　主 4-6-2　再
事業開始年度	平成17年度		分野別目標：人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
根拠法令	なし		施策：ストックの活用による地区の価値や魅力の向上
行政計画上の位置づけ	なし		事業群：エリアマネジメントの推進
背景：事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 福岡都心部の更なる賑わい創出や魅力向上を行う必要性があったため。		施策成果指標	なし

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか 都心部	対象をどのような状態にしたいのか 官民共働により、都心部の魅力や回遊性の向上、美しい景観の形成や安全・安心の空間を創出する。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法　□ 委託含む　□ 補助金含む　■ 負担金含む

〇天神地区・博多地区において、地域・企業などが会員となって、魅力的なイベントの実施、回遊性向上や来街者のおもてなし、まちの美化、防犯・防災活動等のまちづくり活動を実施しているエリアマネジメント団体（天神地区：We Love 天神協議会、博多地区：博多まちづくり推進協議会）に負担金を支出するとともに、エリアマネジメント団体のまちづくり事業に対し支援を行った。

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	24,560	24,226	24,365
歳入	特定財源	15,360	8,640	7,200
	一般財源	9,200	15,586	17,165

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	エリアマネジメント団体数	目標	2	2	2	年度
		実績	2	2		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	福岡都心部は賑わいがあり訪れたくなる魅力があると感じる市民の割合	目標	79	－	79	年度
		実績	79	－		
		達成率	100.0%			
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）

エリアマネジメント団体に負担金を支出するとともに、エリアマネジメント団体のまちづくり事業に対し支援を行う。

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）

エリアマネジメント団体による、まちづくりイベント、集客促進活動、安全安心・環境向上活動が進む。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）

エリアマネジメント団体の活動が活発になり、よりいっそう自律的に運営できるようになる。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）

福岡都心部の価値や魅力が持続的かつ自律的に維持できることとなる。

大　行政のコントロール要素　小

小　外的な要因　大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	ウォーターフロント再整備推進室			
基本計画	施策コード	主 8-1-1	再 8-1-2	5-3-2	5-4-1
	分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
	施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化			
	事業群	都心部の機能強化と魅力づくり			
施策成果指標	○都心部の従業者数：中間目標値（H28ND）39万人，目標値（H34ND）40万人 都心部の１日あたりの歩行者交通量：中間目標値（H28ND）110,000人，目標値113,000人（H34ND）				

事業名	ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備の推進
事業開始年度	平成25年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	福岡市総合計画（施策８－１）
背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 福岡市総合計画においてウォーターフロント地区は，天神・渡辺通，博多駅周辺と同じく，都心部の核として位置付けられており，都市機能の強化，回遊性の向上を図ることが都市の活力を牽引するうえで求められている。

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
○ウォーターフロント地区 （中央ふ頭・博多ふ頭）	1）天神・渡辺通地区，博多駅周辺地区に次ぐ，都心部の新たな拠点として，都市機能を高めるとともに，地区間の連携強化を図り，福岡市の成長エンジンとなる都心部の国際競争力の強化を図る。 2）民間活力やノウハウを積極的に活用しながら，既存施設との連携を図りつつ，MICE機能の更なる強化や集客交流機能，港湾機能の充実・強化により，MICE機能と港湾機能が近接した地区の強みを生かした一体的な再整備を行う。 3）市民をはじめ国内外からの来街者が海に出て楽しめるよう，水辺を生かしたシンボリックな空間や賑わいが連続した憩いと潤いのある空間の創出と，海や街からの眺めや緑を大切にした景観形成を図り，福岡の顔となる都心部の新たな拠点をめざす。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	■ 委託含む	□ 補助金含む	□ 負担金含む

ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）再整備の方向性をとりまとめるとともに，市民や民間事業者に対する広報啓発を行った。

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	9,870	10,867	12,870
歳入	特定財源			
	一般財源	9,870	10,867	12,870

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	市民意見募集の実施回数	目標	未実施	1		年度
		実績		1		
		達成率		100.0%		
	ホームページの更新回数	目標			3	年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	市民意見の件数	目標	未実施	100		年度
		実績		152		
		達成率		152.0%		
	ホームページビュー数	目標			15000	年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
○ウォーターフロント地区再整備にあたっての市民向けの広報啓発

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
○再整備に関する市民の認知度向上
○再整備に関する民間事業者の投資及び参画意欲の醸成

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
○ウォーターフロント再整備に関する必要性の理解

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
○ウォーターフロント地区の着実な再整備

大　行政のコントロール要素　小

小　外的な要因　大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	国際部	国際課

事業名	国際貢献・国際協力の推進	基本計画	施策コード　主 8-6-1　再
事業開始年度	平成24年度		分野別目標：国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
根拠法令	なし		施策：アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進
行政計画上の位置づけ	なし		事業群：国際貢献・国際協力の推進
背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に アジアの諸都市は，急激な経済成長に伴う都市問題に直面している。一方、福岡市は、「住み良いまちづくり」のノウハウを持っているため、都市問題解決に寄与することにより、国際貢献・協力を図るもの。	施策成果指標	○視察・研修受入人数（H28：970人）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
海外の諸都市	海外からの研修生受入れや職員の海外派遣による国際貢献・国際協力を推進する。これらの取組みにより、福岡市の知名度や存在感を向上させるとともに、海外諸都市との関係を構築し，官民連携したビジネス展開をめざすもの。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法　■ 委託含む　□ 補助金含む　■ 負担金含む

○ﾐｬﾝﾏｰ・ﾔﾝｺﾞﾝ市と「まちづくり協力・支援に関する覚書」締結
○「国際貢献・ビジネス推進会議」設置(庁内推進体制構築)
○「国際ビジネス展開プラットフォーム」設置(官民連携した新たな枠組み)
○自治体職員協力交流事業(ヤンゴン市職員受入)
○福岡市の「住み良いまちづくり」広報動画制作(海外行政担当者へPR)
　上映：9件／162人、配布：14件／19枚
○大使館，JICAなど国際協力にかかる関係機関等との協議・連携強化
○海外からの視察・研修生受入れ
　・国際視察・研修受入実績(平成26年度　385名)
※(公財)福岡アジア都市研究所への負担金
　国際視察・研修受入に関して
　・多言語(英・中・韓)に対応した受入窓口の設置
　・情報発信(リーフレットやガイドの翻訳・更新など)

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	6,749	20,829	26,495
歳入	特定財源			
	一般財源	6,749	20,829	26,495

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	視察・研修受入人数	目標	726	799	879	年度
		実績	630	385		
		達成率	86.8%	48.2%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	MOU（協定）の締結数（累計）	目標	2	3	4	年度
		実績	2	3		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
○国際貢献・ビジネス展開
・「国際ビジネス展開プラットフォーム」の運営
・海外ビジネス展開に向けて、関係構築が進んだ地域を対象とした取組み
○国際視察・研修受入
・海外からの視察・研修受入、海外への職員派遣の継続
・ハビタット、JICA、海外派遣職員を活用した海外諸都市の情報収集

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
○国際貢献・ビジネス展開
・相手地域との関係構築
・JICA技術協力プロジェクト等の案件受注
○国際視察・研修受入
・JICA事業等による海外からの視察・研修生の増加、市職員の派遣

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
○国際貢献・ビジネス展開
・ODA等の案件形成
○国際視察・研修受入
・福岡市と長期継続した関係構築のためにMOU（協定等）を締結

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
○国際貢献・ビジネス展開
・官民連携した海外ビジネス展開
→地場企業等のビジネス機会の創出
○国際視察・研修受入
・海外諸都市のニーズに合わせた国際貢献・協力
→福岡市の知名度や存在感の向上

大　行政のコントロール要素　小
小　外的な要因　大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	国際部	国際企画担当

事業名	在住外国人の生活環境整備事業	基本計画	施策コード　主 8-8-1　再
事業開始年度	昭和61年度		分野別目標：国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
根拠法令	なし		施策：アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり
行政計画上の位置づけ	なし		事業群：外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくり
背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 国際化の進展に伴い、在住外国人の生活にかかる情報の収集・提供を中心に事業開始。時代の変化に対応した事業を展開し、外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくりを図る。	施策成果指標	○在住外国人の住みやすさ評価（H29：増加） （福岡市は住みやすいと感じる在住外国人の割合） ○福岡市に住んでいる外国人の数（H28：29,000人）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
在住外国人 在住外国人の支援者 （日本語ボランティア等） 日本人市民	地域における相互理解を促進し、日本人にも外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくりを進める。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法　■ 委託含む　■ 補助金含む　□ 負担金含む

●転入外国人への生活便利帳等「ウェルカムキット」の配付［全区役所］
●在住外国人への生活ルール・マナー紹介等［国際交流財団］
●地域への語学ボランティア派遣［国際交流財団］
●出張レインボープラザ［国際交流財団］
●日本語学習支援
・日本語ボランティア養成講座［国際部・市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ委託］
［※H24まで早良区］
・市民センターにおける日本語学習支援［東・中央・城南・早良・西区］
※国際部、各区、国際交流財団、市民の連携により実施

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	7,609	5,871	25,844
歳入	特定財源		0	
	一般財源	7,609	5,871	25,844

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	日本語ボランティア養成講座受講者数	目標	50	70	70	年度
		実績	70	70		
		達成率	140.0%	100.0%		
成果の指標	市内の日本語教室数	目標	45	45	45	年度
		実績	45	45		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ（どんな活動を行なうのか）
・生活便利帳等「ウェルカムキット」を配付する。
・日本語教室、ボランティア養成講座を開催する。
・マナー紹介、ボランティア通訳派遣を実施する。
・区役所窓口業務を支援する出張レインボープラザを実施する。

②結果ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ（活動の結果、どうなるのか）
・在住外国人へ情報が届く。
・在住外国人が日本語を学ぶ。
・在住外国人が日本の生活ルール・マナーを学ぶ。
・日本語ボランティアが増える
・在住外国人と地域住民とのコミュニケーションがとれる。
・区役所の外国人対応がスムーズになる。

成果の指標

③中間ｱｳﾄｶﾑ（その結果、対象はどうなるのか）
・外国人が情報収集しやすくなる。
・外国人が日本語を習得し，日本人とコミュニケーションが取れるようになる。
・外国人が日本の生活ルール・マナーを実践する。
・外国人が地域住民との交流が進み，地域とのトラブルが避けられる。
・外国人が区役所を利用しやすくなる。

施策成果指標

④最終ｱｳﾄｶﾑ（その結果、市としてどうなるのか）
・日本人と外国人の相互理解が進み、日本人にも外国人にも住みやすく活動しやすいまちになる。
・外国人にも住みやすいまちは，高度人材及び留学生の誘導，定着を下支えし，福岡市の国際化、活性化につながる。

大　行政のコントロール要素　小
小　外的な要因　大

平成26年度事業実施分　内部点検対象事業（個票）

新規／継続	継続

所管課名	総務企画局	国際部	国際企画担当

事業名	留学生支援・ネットワーク構築事業	
事業開始年度	昭和63年度	
根拠法令	なし	
行政計画上の位置づけ	なし	
基本計画	施策コード	主 8-5-2　再
	分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
	施策	グローバル人材の育成と活躍の場づくり
	事業群	留学生支援・外国人ネットワークの構築
背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 地域の競争力を強化し活性化を図る上で、地域や我が国を支える人材として、また、世界で活躍できる高度人材、あるいは出身国と福岡との橋渡しをする人材として、留学生が重要な存在となっている。そこで、優秀な留学生の本市への集積を促進するとともに、本市留学経験者を含め、地域における活用を図る必要があったため。	
施策成果指標	○ 就労目的の在留資格を持つ外国人の数(H28：3,200人)	

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
外国人留学生 帰国留学生 市民 日本人大学生	・地域社会や我が国を支える人材として優秀な留学生の集積を促進するとともに、市民交流を推進し、市民の理解と協力を得、福岡の良き理解者として養成する。

26年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	□ 委託含む	■ 補助金含む	■ 負担金含む

○ 留学生奨学金事業
・福岡市レインボー奨学生奨学金（(公財)福岡よかトピア国際交流財団）により、留学生の経済面の援助をし、学習環境の整備と優秀な人材の誘致を行った。
○「福岡県留学生サポートセンター」における海外広報、就職支援
・経済界、大学及び県などと共同で、海外広報や留学生への就職支援を行った。
○ 福岡市留学生経験者も含む留学生とのネットワークの構築
・留学生交流サイトを構築し、奨学金受給者などの留学生とのネットワークを構築するための交流基盤をつくった。
○スタートアップ奨学金
・市内大学の日本人留学生に奨学金を貸付し、スタートアップ支援を行うことにより、地元への定着を図った。

事業費（千円）	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	15,300	19,355	35,220
歳入	特定財源			
	一般財源	15,300	19,355	35,220

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 25年度	実績 26年度	目標 27年度	目標 最終年度
活動の指標	福岡市内の大学・短大に在籍する留学生数	目標	3,471	3,571	3554	32年度
		実績	3,227	3,227		5533
		達成率	93.0%	90.4%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	連絡の取れる留学生数・留学経験者数	目標	250	600	562	32年度
		実績	320	475		1000
		達成率	128.0%	79.2%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
・留学生奨学金事業を行う。
・留学生の市民交流を促進する。
・福岡県留学生サポートセンターを通じ、海外広報、就職支援を行う。
・福岡市留学生経験者も含む留学生とのネットワークの構築を行う。

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
・奨学金を受給する留学生の生活が安定する。
・留学生に対する市民の理解と協力を得られる。
・留学先に福岡市を選択する留学生が増加する。
・留学生奨学金事業により、留学生の学習環境を整備し、優秀な人材の誘致ができる。
・帰国留学生とのネットワークを維持できる。
・日本人大学がグローバル人材として育成される。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
・福岡市への留学経験者が、福岡市に対して好意的な、良き理解者となる。
・福岡市に就職する留学生が増加する。
・地域での留学生の人材活用を行うことができる。
・日本人大学生がグローバル人材として福岡市に就職する。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
・グローバル人材として留学生を活用し、定着した優秀な人材が福岡市で活躍している。
・福岡市がグローバル人材の結節点として機能する。
・福岡市が「世界のグローバル人材の一大輩出地」となっている。

大　行政のコントロール要素　小
小　外的な要因　大